

令和3年度 第2回 越谷市環境審議会

- 1 開催日時 令和3年10月26日(火) 午後2時から午後3時40分
- 2 開催場所 越谷市役所 新本庁舎8階 第1委員会室
- 3 出席者 大熊 正行、渡辺 智子、小船 隆一、島村 稔、小松 登志子※、船山 智代※、
浜本 光紹※、青柳 みどり※、嶋田 知英※、三澤 善道、石井 秀夫、
星野 智子※、中園 金吾、高関 義博、村上 月江(敬称略)
※オンライン参加
- 4 事務局 環境経済部長、環境経済部副部長兼環境政策課長、環境政策課副課長2名、
環境政策課職員2名
- 5 内 容
 - 1 開 会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 議 事
 - (1) 越谷市環境管理計画の令和2年度の取組報告について
 - (2) 越谷市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の令和2年度の取組報告
について
 - (3) その他
 - 4 閉 会
- 6 資 料 資料1 令和2年度 越谷市環境管理計画実施状況報告書
資料2 令和2年度 越谷市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)実施状況報告書

投影資料 ①資料1・2関連説明資料
(当日説明用)

当日配布資料 令和3年度 越谷市環境白書(冊子)

※ペーパーレス会議の推進として、タブレット端末を使い説明
※新しい生活様式の実践として、WEBでの会議参加、ソーシャルディスタンスの確保
等新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取り開催。

令和3年度第2回越谷市環境審議会 会議録

3 議 事

(1) 越谷市環境管理計画の令和2年度の取組報告について

議 長：議事(1)「越谷市環境管理計画の令和2年度の取組報告について」、事務局より報告をお願いします。

事 務 局：資料により説明。

議 長：ただ今の説明について何か意見質問等はあるか。

委 員：環境管理計画は、今年が最終年度の年になる。従来のまとめ方で良いのか。当初、平成23年に策定した計画にプロジェクト目標指標を6項目設定している。それに対して、今現在どうなっているのか明確に答えた方がよいと思う。これとこれはこうして達成されている、これは達成されてない、これはこういう施策が不十分であってできなかった、これは施策がうまくいってクリアできたなど、どの施策が効果的で、実現できたかを評価しないと新しい環境管理計画に関しても、ズルズルとってしまう。効果的なものは今からでも、新しい環境管理計画において組み換えなどもできると思うので、きちり総括をここでできた方がよいと思う。今まで計画に載せても全然やらなかった、これはなぜかということ洗い出して、必要がなければそれは切り捨てるという取捨選択をして新しい環境管理計画に臨んでいると思うが、この辺のまとめを1個1個実施することは構わないが、それで何%達成していますと言うことは良いが、この主たるものでどうなったかということを知りやすく書いた方がよいと思う。このまま読むと皆さんわからないと思う。このまま出されて、何が何%、何が何%、この年は達成できたと書かれても、結構わかりにくいと思う。最終年度ということ念頭に置いて、もう少しわかりやすいまとめ方にしたらどうかと思う。

事 務 局：プロジェクト目標指標については、お手元に古い方の環境管理計画がないと分かりづらいかと思うが、前の環境管理計画では、先ほど説明をした重点プロジェクト6個について、それぞれ目標指標を設定した。まず、重点プロジェクトの1番、公害災害対策の部分では、プロジェクトの目標指標は、令和2年度までに、公害防止・環境モニタリング事業を強化し、大気・騒音などの環境基準の未達成項目をなくします、という目標だった。この結果は、光化学オキシダントの部分で、目標が達成できなかった。重点プロジェクトの2番、地球温暖化対策の推進プロジェクトの目標指標は、市民1人あたりの温室効果ガスを1990年比25%削減します、という目標だった。こちらについては、目標達成ならず、削減ではなくて増加してしまった。重点プロジェクトの3番、循環型都市づくりの推進プロジェクトの目標指標は、市民1人1日当たりのゴミ排出量を800グラムにします、という目標だった。こちらの方は達成できた。重点プロジェクト4番、生物多様性の部分については、令和2年度までにコシガヤホシクサを野生復帰させます、という目標だった。こちらの方は、葛西用水での種をまいて花をつけて実をならせるという実験は成功しているが、野生復帰という状況にはなっていない。未達成。水辺と緑の豊かな環境整備プロジェクトの目標は、平成27年度までに市民1人当たりの公園・緑地面積を5.95㎡に拡大します、という目標だった。これは途中で目標値が改定されが、今手元に数値がない※1。申し訳ない。重点プロジェクトの6番、目標の指標は、環境イベントへの参加者数を1万人に拡大しますと、いう目標だった。こちらは、1万人に達した年もあったが最終的には、1万からは大きく下がってしまっている。6件のプロジェクト目標指標に対する達成状況は、今の説明の通りとなる。全部の指標を並べる方法もあるが、総括をして、この重点プロジェクトの目標指標の達成状況を総括的に説明するという部分は、あってもよいかと思う。そちらについては、ホームページ等で公表する際に、この6個の部分の抽出して報告をするという方法も考えたいと思う。

議 長：今回は令和2年度の結果報告ということだが、過去10年の環境管理計画のまとめ、成果のまとめについて何かまとまったものを、もう少しわかりやすく、どこまでできて、どこが問題で、どういう課題が残っているなど、そういったまとめは、何か報告書として出すか。

事務局：新しい環境管理計画を検討する中で、当然、前の計画の達成状況などを分析して課題がこれで残っているから、このように新しい計画を作った、という手順になっている。ただ、新しい計画を作るときには、令和2年度の数値は入っていないので、課題抽出・前計画の分析というのは、新しい計画を作る中でされていると考えられるが、10年間すべての総括という中で、前回の計画で、こういう点が課題として残ったから新しい計画にこのように反映しているといった説明は必要であればつけたいと思う。

議長：他に質問等ある方はいるか。

委員：今年度が最終年度のものである。来年度から新しい計画に移るということで、どうしてできなかったのか、実施なしと評価が低いもの2種類あったと思う。評価が高いAのものと、それから評価が低いDのものと、それから実施なしとあると思うが、特にこの実施なしというものは、ただ実施なしと書いてあるだけで、どうして実施しなかったのかがわからないのと、それからどの評価であっても、これが来年度以降の新しい計画で引き継ぐのかどうか、引き継がないとしたらどうして引き継がないのかなど、最終年らしいまとめがあると良いかと思う。

事務局：まずは新しい計画がもうできている状態であり、前計画での反省点、課題はこの新しい計画の中で説明していると思う。ただ、今回10年間の総括の報告の中で、再度、新しい計画にも書いてはあるが10年間の総括、説明は公表の段階で加えたいと思う。

委員：この10年、環境関係は非常に動きが早く、また大きく動いた。10年前に決めた計画がどこの自治体でもその通り実施することは大変だったと思う。周囲の状況が変わったためにできなかったことがあるということはある意味当然だと思う。だから、その時にどうしてやらなかったのか、できなかったのかという理由だけはきちんと書き残しておくべきではないかと思う。この10年本当に動きが早くて、去年作ったはずの新しい計画できても、今の時点で数字が変わってきてしまっている。周囲の状況の変化はみんなわかっているのだから、そこはきちんと書くというのがある意味、そのあとの振り返りが必要じゃないかなと思う。

委員：新計画を見ても、どのようにやってどれが悪かったということは、これから読み取れるとは到底思えない。だからやはりまとめておいた方が良いと思う。それがないと、この中で指標を作っているにしても、また指標の見直しもすると思うが、その時に確固たる理由がわからないものというものはどうしようもない。なぜやらなかったか、その辺がわからないと何も発言しようがない。なぜそこをやらなかったかなど細かいところを突いていくと、たくさん言いたいことはあるが、最後のまとめ段階なので、やはり、どこが、どういう施策が足りなかったのか、予算がなくてできなかったのか、環境がその間に変化してしまっただけでできなかったのかなど、途中で指標を取りやめたものもある。理由をつけてそれに代わるものが設定されなかった。私はそれに不満を持っている。具体的には、生物の種数を途中までは計測していたが、途中から調査方法が変わったため、これは取り上げないということになった。それが他に置き換えられるかということ、コシガヤホシクサの野生復帰という指標では、それから、フジバカマを何平米多く保全しましたという指標とは全く質が違うと思う。だからその辺の反省がどう入っているかよくわかっていなかった。具体的な手法についても、おそらく前の委員会で、完全に最後の方の細かい指標までは議論されてないと思う。大まかな指標だけが議論されて、それがこの報告書に載っていると思う。細かい指標は多分各課から出てきており、令和2年度第2回環境審議会資料の最後にエクセルの表があったのだが、それについては議論されなかったのだから、今後、また来年度に出てきた段階で問題になっていくのではないかと考えている。それに対してどこがどう問題かということがわかるように、ここで整理しておいた方が良いのではないかと考えている。皆様多分同じ考えで最終年度なので、その辺はある程度まとめておいて欲しいと思っていると思う。

部長：先ほどの委員のご指摘の通り、本当に10年間のうちの後半の部分は非常に変化が激しくて、当初10年前に計画したものとなかなか現在の施策がマッチングしてこなかったという部分も確かにある。また生物多様性の部分についても、当初は希少生物などに重点を置いていたが、最近では外来種、植物もそうだし昆虫もそうだし動物もそうだしそういう問題がクローズアップされてきたということもあって、なかなかこの指標通りにいかないというところがある

った。ただご指摘の通り、実施なしの部分と、それから実施状況Dの部分、この部分については、やはり手元の皆さんの資料の中ではまとめて何%というような円グラフにしているが、事務局サイドとしては、293の施策を全て細かい表にしたもので、進捗状況を管理しているので、この中で実施なしと実施Dの部分については、先ほど委員からも指摘があったが、なぜできなかったのかという部分については、次の計画に活かせるように事務局の方で整理をしていきたいと考えている。

議 長：確認だが、過去10年のまとまった報告書は作成する予定か。

事 務 局：当初は、作成する予定はなかったが、委員の皆さんから、様々ご意見をいただいたので、10年間の成果とそれから課題について、指標値、それから実施状況等まとめたものも年度報告とはまた別にまとめたいと思う。

議 長：その報告書ができた場合は、この審議会に諮るか。

事 務 局：まず、その年度の報告を今回議事とした。10年間の成果をまとめたものについては、議事という形ではなく、皆さんそれから当然市民の皆さんもそうであるが、報告書をお見せするという形でまとめたいと考える。

議 長：その他に意見はあるか。

委 員：資料送ってもらったときに、またいつものパターンで作成してあった。私は環境管理計画が10年目ということで、それはそれでまたパターンを継投して同じパターンで作成し、それも意味のある事だと理解した。例えば地球温暖化のところ、グリーン電力のところを、実施なしで平成29年度までとある。まとめるときにこれが以前にも聞いたと思うが、29年度でどうしてそれを止めたのか、達成できたからやめたのか、全ての予算上のこととか、環境が10年間で変わったからか、そういうことが一つどこかでまとめてもらえると、見る方がぱっと見たときに、あれどうしてかとちょっと疑問に思うことが解消され、それでまた達成できたのだったら、その後、実際には継続して達成していますといったコメントがあれば、しっかりその後もできているのだと思う。もう少し丁寧に書いてほしいと思う。

事 務 局：10年間のまとめの中で、途中で、何年度までと決めているものであったり、今のご意見のようなどころについては説明できるようにまとめていきたいと思う。

委 員：13ページの越谷版生物多様性の保全、その中でフジバカマを譲り受けてフジバカマ公園に移植しましたと書いてあるが、在来種、これはもともとどこの水系とか河川にあったもの、その所有者がきちんと育てて、それをもらって、なぜこの時期に移したかなど、その辺を知りたい。出所がわからないものを移動させると、取り返しのつかないことになってしまうと思う。フジバカマは保全しますとやってやっているが、元々はどこから来ているもので、由緒正しくかわからないが、それを一時園芸種が植えてあったがそれを引き抜いて全部それに置き換えたというような記載もインターネットで見たことがあるが、その辺の経緯をどこかまとめておかないと。コシガヤホシクサは今のところはそんなにたくさんしてないので大丈夫だが、そういうものをその都度まとめておかないと後で結構困ったことになるのかなと思う。遺伝子の解析までしてやるのか、最後にそれにロカリティによってはやはり、遺伝子のハプロタイプが違ったりする場合もあったりすると思うので、その辺はどう考えてどういう保全、市が関わるという時点において、どういう姿勢でどのようにやっていくのかをこの辺で多様性の保全というカテゴリに掲げるなら、やはりそこまで一応突き止めておいた方が良いと思う。それとキタミソウの方に関してもオオオナモミの除去など共同で実施したり、ごみ拾いをしているのはわかるが、もっと、例えば市として、もう少し上流部分についてオオオナモミの除去をできるのかなど、そういう検討をされたと思うが、その辺も積極的に今後は取り入れてもらったら良いかと思う。それから14ページのクビアカツヤカミキリだが、これは私も少し関与させてもらっているが、令和2年の捕殺数合計17とあるが、足すと16にしかない。これは単純な間違いなのかもしれないが、修正していただきたい。それから、サクラの木の伐採についても、どうせなら入れた方が良いのではないかと。クビアカツヤカミキリについては、令和2年までの値を載せていて、アライグマ・ハクビシンに関しては、令和3年まで載せているというのは、どういう意図があるのか。皆さん市民に出回るものなので、これ意図があって、令和3年を載せて、クビアカは、令和3年の結果が出ているけど載せな

かったという、何か意図があるのかなとか思ってしまう。この辺はどういう考え方で整理しているのか。

事務局：まずフジバカマについては、環境サポーターの方からご自宅で栽培して増えているものを譲り受けて、それをフジバカマ公園に移植している。三郷市の自宅で栽培して毎年かなり増えるということで、それを譲り受けて増やしているという状況である。

事務局：コシガヤホシクサとフジバカマ、野生絶滅ともう少し緩いカテゴリのものを同列に扱うべきではないと思っている。ただ、その出自ぐらいは、どこ産のものなのだとこのところは、わかる範囲で把握するようにしたいと思う。クビアカツヤカミキリについて、数値の違いは集計ミスであり訂正する。また、1枚の表でとあえずその生息が拡大しているという状況をお知らせするという意図で資料を作成している。令和3年度を入れてしまうと1枚の画面で収まらないため除いている。除いているというよりも令和2年度の実績報告のため、令和3年度は載せていない。ではなぜアライグマの方は令和3年度を入れているかということ、令和2年度の捕獲数が倍以上に増えている。これは令和2年度だけ、1年限りのものなのか、一見するとわからないため、令和3年度の9月末現在の捕獲数も載せ、令和2年3年と連続して増えているということを理解いただく上で、令和3年度の中途の結果もつけている。

委員：やはり10年間の取りまとめで、令和2年の取りまとめなので、余計なことは書かない方がよいと思う。アライグマ・ハクビシンについて、わざわざ令和3年度分を載せる必要はないと思う。令和3年度分を排除したグラフの傾向を見ても、多分増えている可能性が高いなどと思う。令和2年までのカテゴリを扱っている中で、令和3年を途中で入れてしまうとここだけ異質になってしまうため、少し配慮した方がよいと思う。それと指標達成状況の温室効果ガス排出量について、令和2年度について、まだ結果が出てないということでスラッシュになっているということで良いか。

事務局：アライグマのグラフについては、ご指摘の通り令和2年度までに修正をさせていただく。また温室効果ガスの排出量について、一番早いデータでこちらに出ている令和元年となる。令和2年度のは、おそらくもっと後にならないと数字が出てこない。様々な統計データを集計して算定しているため、数年遅れでの報告となってしまいます。わかりにくいと思うため、注釈をつけて説明をしたいと思う。

委員：ここにいる見識のある方は皆さんが理解していても、一般の人が見るとわからないと思うので、注釈をつけていただきたいと思う。

議長：他に意見はあるか。一つだけ、最後のスライド、円グラフ、πグラフがあったが、過去10年間全て実施なしというものが少しあるが、これは例えばどんな項目で、どうして10年間全て実施なしだったのか、何か一つか二つ例があるか。

事務局：資料を持ち合わせていないが、293各課から上がってきた施策で、毎年何で実施できなかったのかを聞くと、予算が取れない、計画上載せられなかったなどの回答が多かった。

議長：今すぐわからなければ結構だが、先ほどからいろいろな委員からのご意見もありそういうものの項目は、今度、次の10年に引き継がれるのか、もうやめてしまうのか、その辺も何か報告書中で、コメントがあれば良いと思う。

委員：循環型都市づくりの推進ということで、エコマークとか、リターナブル商品製品とある。結構身の回り気を付けてればたくさん目につくと思う。市役所として、各課所で使われていると思うが、それなのに実施Dだとか、なしというのは、具体的に製品として何を指しているのか。

事務局：こちらの施策については役所で使うというよりは、市民、事業者の皆さんに使ってもらうための何らかの取組という想定で考えている。市役所関連の事業については、グリーン購入という基本方針を定めていて、毎年それは集計をしていって、80%以上そのグリーン購入に基づいた、消耗品等の購入はしている。

委員：そうすると、市民の段階で使用している状況を調査していないということか。

事務局：そうである。

委員：ぜひ調査していただきたいと思っている。使用していると思うので、評価がもう少し高い結果になると思う。

- 議 長：その他に意見はあるか。
- 委 員：エコマークの話について、私はエコマーク審査委員しており毎月会合に参加している。グリーン購入法とエコマークはお互い審査基準を参照しており、エコマークでなくてもグリーン購入法に従ったものならば、同等とみなして考えても全く100%同等ではないが、ほぼ同等とみなして良い。その辺は計画上融通を効かせて、途中で計画を微修正して、この部分がエコマークはグリーン購入法基準と読み替えるなど、融通を利かせるような配慮も今後新しい計画では必要ではないかと思う。つまりエコマークと決めたので、エコマークだ、エコマークよりもグリーン購入が法律でできたからそっちだ、エコマークだからゼロという非常に硬い運用ではなく、もう少し実態を反映したような運用をしていただければ良いかと思う。
- 事 務 局：次の計画の中で、その施策の評価等、少し柔軟に対応していきたいと考える。
- 議 長：その他に意見はあるか。
- ただいまの審議、皆さんの意見をまとめて、後日、市長に報告しなければならないが、報告内容については、議長一任ではなく、一度皆さんに確認をしていただいて、それを市長に報告したいと思う。よろしいか。事務局の手間にはなるが、そうさせていただきたい。皆さんよろしいか。
- 全 員：異議なし
- 事 務 局：事務局としては、ご意見をまとめたものを各委員にもう一度確認していただいて、その結果をもって市長報告という手順で構わない。

(2) 越谷市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の令和2年度の実行報告について

- 議 長：議事(2)「越谷市地球温暖化対策実行計画区域施策編の令和2年度の実行報告について」、事務局より報告願います。
- 事 務 局：資料により説明。
- 議 長：ただ今の説明について何か意見質問等はあるか。
- 事 務 局：先ほど環境管理計画の方でご指摘いただいた10年間の総括、まとめの部分については、同様に温暖化対策実行計画もまとめて公表したいと考えている。
- 議 長：先ほど環境管理計画の方でご意見が出たので、温暖化対策実行計画の方でも、そういったまとめをしていただければと思う。
- その他に意見等あるか。
- 委 員：越谷市は人口が増える中で、なかなか温室効果ガスの削減目標達成するのは難しいということとは十分理解できたが、資料P23のグラフの中で、市全体のCO₂の排出量と市民1人当たりの排出量ということで整理をしてあるが、特に震災以降、電力の排出係数が非常に悪化をして、特に12年、13年非常に上がっている様子が見える。電力排出係数は実際の値を使用していると思うが、仮に排出係数を例えば固定をしたり、基準値と揃えたりすることで、実は越谷市がかなり頑張っていて1人当たりの排出量は実は減っているといった、そういう表現の方法、見せ方はできないのかなと思うがいかがか。
- 事 務 局：新しい計画の検討の中で、そういった計算もしている。令和元年度の数字までを含めたものは示していないが、10年間の総括資料の中で、そういった分析結果は示したいと思う。
- 委 員：多分そのままの数値で示すよりも、排出係数固定で示した方が、実際の努力量みたいなものが見えるのではないかなと思う。
- 議 長：その他に意見等あるか。
- 委 員：環境管理計画にもあったように、今回の資料の一番後ろに実施率の円グラフがあるが、何もやっていないというものがある。資料2で送っていただいた温暖化計画の方の文書を見ると、この計画は2011年に策定されている。震災前後に策定されているということは、震災前に議論した内容が震災後にはほとんどチャラになってしまっているところが非常に多かったりするが、そういう影響とかがあったのかどうか。なおかつその震災があっても、計画の方は全くいじらなかつたということなのか。それがこの何もしていないという、結構多い気がするが、全て実施なしが10%、このように反映されているのだとしたら、どこかで計画を改定す

べきだったのではないかと思う。その辺はいかがか。今後の参考のためにも伺いたい。

事務局：温暖化対策実行計画は、中間見直しを一度している。震災直前にまず当初の計画ができて、そこから約5年後に見直しをしている。震災後の状況はある程度反映はしている。ただ、その中で施策がまるっきり社会の造りが変わったので、これはちょっと施策にならないなというものは除いたりしている。ただやはり正当な理由がない、社会等の状況からはこの施策はそのまま変わらないというものは残してある。実施なしの10%は数にすると8項目になるが、こちらの方は、やはり予算が取れない、計画から外れたなど、そういうところで実施ができなかったという10年間の結果になったと考えている。

部長：補足説明をさせていただく。今の委員のご指摘、見直しの関係だが、10年前当初計画を作ったときは、国の目標に合わせて作った。その後東日本大震災があって、国の目標も変わったが、結局当初定めた目標よりも、逆に低い目標値に変換する見直しをするというような過程であり、その時には議論はあったのだが、なかなかその達成をするかどうか非常に難しいところはあったのだが、目標を下げると、もともと定めた目標を、震災があったからまた下げるというところは疑問があり、こちらとしては当初の目標に向かって、とにかく10年間努力をすると、そういう判断を当時した。今回は新しい計画の中で、新しい国の目標が2050年46%削減という新しい目標が、新しい計画を作った際に、ギリギリのところ国が定まり、まだその目標が新しい計画には反映されてないという状況であるので、この脱炭素に向けた部分については、早く国の目標に合わせた対策を打っていかなくてはならないと思っている。今後の適切な時期に新しい計画の中での目標の見直しをしっかりと時期をとらえて修正していきたいと考えている。

議長：その他に意見等はあるか。

委員：資料2の温暖化対策実行計画のP14、バス路線の充実と利便性向上が実施Aとなっているが、私の住んでいるところでは、休止路線という運休している路線が結構できてしまっているような状況である。この辺のうまい調整が、都市計画課が所管課かと思うが、何とかできないのかなと思う。誘致しても、結局は乗降者数とかが合わないということで、休止、運休に追い込まれている状態である。路線としては廃止してない状態で運休しているというものは、結構あると思っている。この辺は市としては、政策を考えるということはないのか。普通は民間ベースで解決して欲しいという話であるとは思いますが、その辺この実施Aというのを見ると本当にそうかなと思う。要望などを聞くでしょうけど、バス会社自体が誘致しても結局運休してしまう状態になっているところがある。これから高齢化が進んでいくに連れてこの辺どうするかというのは問題であるし、CO₂排出の面からもこの辺のトリートはどうするかという話が、前向きな話があったら良いと思う。

事務局：都市計画課が公共交通を取り扱っている。バス路線が届いていない地域、そういうところでデマンドタクシーの試験運行とか、そういった新しい取組、試行を進めている。今後高齢化が進んで、自動車を運転されない方も多くなったときどうするのかというところで、取組、計画を進めているところである。新しい取組についてはいくつか実施しているので、それはまた都市計画課から発表がされると思う。

議長：その他に意見等はあるか。

委員：自転車のことで伺いたい。南越谷、獨協病院から国道に出たところあたりは、ブルーの自転車路線がある。ところが走っている途中で細くなって、私どこ行くのだろうという感じになっている。すごく困るなと思う。自転車は一応車と同じということで、私は車の免許持っていないのでよくわからないが、70歳過ぎの方は歩道を通って良いと認識している。私は70過ぎのため歩道をとおるのだが、どうもその辺のことがはっきりしてないと思う。自転車は非常に便利な乗り物だと思う。だからもう少し使いやすくなれば良いと思う。みんな共有の自転車と言っても、なかなか体がついていかない、だから自分の自転車がきちんと走れる、そういうことでお互いにそれがわかり合える、車道と歩道と、そういうのがもっとはっきりしてもらえたらありがたいと思う。

事務局：県道なので、県の方で青いラインを引いている。おそらくは交差点の付近で自転車レーンを狭くしているという状況があらうかと思う。全般的には道路の幅が十分とれて、歩行者、自

転車、自動車それぞれの幅ができれば、理想的かと思う。レイクタウンの中ではそれができているかと思う。新しい路線整備の中で道路の部門の方でも検討がされていると思うので、そういったご意見を伝えていこうと思う。

議長：その他に意見等はあるか。一つ伺いたい。スライドの24で、公園緑地等の面積が実際減っている。緑地が減る、緑地の面積が減少するということはどういうことなのか。

事務局：公園緑地については公園緑地課で管理をしている。面積についてはこのほど計算をし直したため数値が変わっている。単純に面積が減少したためではない。

議長：算定方法の違いによるものかどうかを注釈つけていただいた方が良いと思う。その方が分かりやすいと思うがいかがか。

事務局：公園緑地課と調整してわかりやすい表現に変更する。

議長：その他に意見等はあるか。この議題についても、皆様からのご意見をまとめて市長に報告することになる。環境管理計画と同様にまとめたものを皆様に確認いただくということにさせていただきますが良いか。

全員：異議なし

議長：議長一任ではなく、そのようにしたいと思う。それでは特にご意見ないようでしたら次の議題、その他に移りたいと思う。何か事務局からあるか。

事務局：先ほど来ご意見があったように、まず10年間の取りまとめの部分について、今後まとめの作業をしていく。その前に一旦今日のご意見をまとめて、皆様からご意見の一つとして、10年間の取りまとめがわかるような資料を作るべきだというようなご意見があったというようなまとめ方にさせていただければと考えている。

議長：次回の審議会はいつごろの予定か。

事務局：特に法律が大幅に変わるなど、何か必要な議題が特別に生じない場合は、来年の同時期に、今年度の事業の実績報告をする予定でいる。

議長：以上で本日の審議회를終了させていただく。オンライン参加のため皆様の声が聞き取りにくかったり、会場の様子が見えにくかったりして、なかなか進行がうまくいかず失礼した。

副会長：あいさつ

閉 会

その他

※1：前計画の重点プロジェクトの5つ目、水辺と緑の豊かな環境整備プロジェクトの目標指標は平成28年に改定され「平成42年度までに公園緑地等の面積を227.6ha（平成27年度 198.23ha）に拡大します。」となった。現況値は平成27年度198.23haとなっているが、令和元年度に面積を算出し直したところ、当初より-8.82haの189.41haであった。令和2年度の数値としては194.06haであり現況より前進しているということになる。